



▲ 困難に立ち向かう「生きる力」について講演する清水氏

安心安全な地域社会をめざして



の取り組みを願っております。
世界基準を満たした安心安全なまちづくりに向けた取り組みの根底には、お亡くなりになった児童二人の願いがしっかりと息づいているということを確認しておきたいと存じます。そのうえで、本市ならではの効果ある活動を深め、事故やけがを一件でも少なくすることが、8年前の悲しい事故を風化することなく、時代の先鞭への教訓になり得るものと確信しております。」

今年のごとくでは

— 今日までの取り組み —

四万十川水難事故の背景を明らかにし、事故原因を解消するため、事業執行安全管理体制審査委員会によるチェックや危機管理計画に基づく個別「安全管理マニュアル」の整備と見直しを継続的に行ってまいりました。また、安全管理推進運動強調月間を設けて、推進リーダー研修や、夏休み前の青少年活動施設一斉安全点検を行いました。
さらには一時救命に対応するためのAED配備や、青少年自然体験活動に関する指導者や担当職員等の研修を実施し、安全意識の向上と体制整備に努めてまいりました。

— 今後の取り組み —

さらなるステップアップのために、職員の安全管理の基礎知識の向上と安全管理体制の強化に努めることとし、現状に合った安全管理マニュアルの見直しと理解の徹底を図ります。
また、大規模な災害に備え、避難所に指定されている施設の鍵の保管場所の確認や点検を行うとともに、

「甲賀市青少年活動安全誓いの日」の7月31日、甲賀市青少年活動安全誓いのつどいをあいこうが市民ホールで開催し、市民の皆さんをはじめ、市職員、教育関係者など718人の参加がありました。
つどいでは、初めに8年前に市が起こした四万十川水難事故でお亡くなりなられたお二人への黙祷をささげ、青少年の野外活動をはじめとする市の全ての事業の安心安全の確保に全力を挙げて取り組むことを参加者全員で誓いました。
また、これに続いて、市の安全管理の取り組み報告と青少年活動の安全についての講演会を行いました。

安心安全への誓い

つどいの冒頭では中嶋市長が次のようにあいさつを述べました。

「平成19年7月31日、市教育委員会が野外活動事業を主催した高知県四万十川において、小学校6年生と5年生の児童お二人の、何物にも代えがたい生命を奪うという、あってはならない事故を起してしまいました。」

市といたしましては、市民を守る手段を常に自らに問いかけ、非常時の対応や防災面にも力点を置いた事業展開を積極的に進めてまいります。



しかしながら、行政の届く範囲には限界がありますことから、市民の皆さんにも安全な地域づくりへ参画していただくこと、国際認証というハードルの高いセーフティをめぐすことを理念に、市民の皆さん
▲ 野外活動の技術や危険から身を守る知識などを学ぶ「ニンニン忍者キャンプ」

各職場においては安全管理研修の継続実施を図ります。
さらに、安心安全な地域社会を目指す「セーフティ」の取り組みを進め、安心安全の輪をまち全体に広げながら、さらに向上させていくことをめざし、今年度世界基準の認証取得に臨みます。

— 「講演会」から —

「生きる力を育てる」育成活動のリーダーシップ」と題した、清水勲夫さんの講演では、「生きる力」とは、いい仕事に就いたり、お金を稼ぐ事ではなく、困難な出来事に自

分なりに対処し、時には耐え、さらにはそれらに立ち向かう心や知恵をいいます。育成活動とは、様々なモデルや身近な体験を通じて、直接、間接、また地道に取り組みながら、心や知恵を養うことで、それは人を育てる組織づくりにも通じます。」というお話があり、生きる力を育てることの大切さを学びました。

問い合わせ
・安全対策マニュアルについて
社会教育課
☎06-80022 / ☎06-8033800
・活動の助言や備品貸出について
甲南青少年研修センター
☎06-8151 / ☎70-33366
・安全管理の取り組みについて
危機管理課
☎5-06665 / ☎6-34619



講演をいただいた
しみずいさお
清水勲夫氏

一般財団法人野外活動協会専務理事
兵庫県キャンプ協会副会長
兵庫県教育委員

事故があると主催者はこの足を踏みますが、実は子どもたちは日常多くの危険に接しながら生活しており、トレーニングや体験をする必要があるのです。

安全性100%のキャンプや遊びはなく、それが力を育みます。

家庭、学校、そして社会教育機関など、大人たちがしっかりとスクラムを組んで、経験を活かして継続して子どもたちの体験活動に取り組んでいただきたいと思ひます。